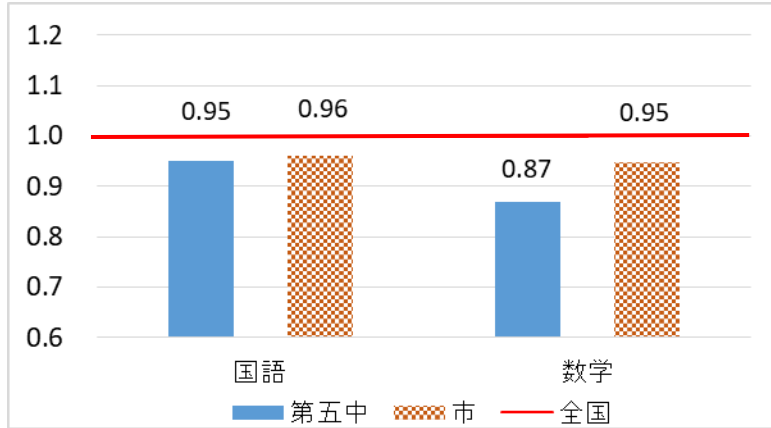


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【 国 語 】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題において全国平均を上回る結果であった。今後も文の読み取りや、自分の意見について根拠を基に話すなどの言語活動を大切に学習活動を各教科で取り入れていく。

【 数 学 】

「関数」領域の「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」問題について、全国平均レベルであった。今後、関数を理解すると共に、他教科とも関連させながら、根拠を基にした数学的な説明を意識した指導を行っていく。

【質問紙調査】

「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に1時間以上と答えている生徒の割合について全国値が14.1ポイントに対し、20.1ポイントと上回っている。引き続き読書活動の推進に取り組んでいく。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

学力調査の結果を分析し、課題を共有している。また、毎学期、各校の取組・進捗状況を情報交換し手立ての確認を行うとともに、ディベート教育・道徳教育を柱に考える力を育む「授業づくり」研修会も実施し、朝の時間の有効活用についても各校で工夫を行っている。

【 学 校 】

本年度から、全校で毎朝の読書活動に取り組んでいる。普段1日あたり1時間以上読書をしている生徒が増加しており、読書活動推進の取組の有用性が見られる。

授業では、ディベート等に取り組む中で、根拠を示して意見を述べることや、自分の考えを持ち、的確に他人に伝える技術を身につけるなど、主体的に考え、表現し、伝える力を育み、確かな学びに繋げる。